

令和2年度 施政方針



令和2年2月25日に開会した市議会3月定例会の冒頭で、久喜邦康市長が発表した令和2年度の市政経営に対する基本的な考え方である施政方針の概要を抜粋してお伝えします。

秩父市経営方針の基本理念

秩父市を未来永劫、輝かせるために、今までの事業をさらに前進させ、さまざまな課題を創意工夫で解決し、一步一步、前へ前へ、確実に！「日本一、しあわせな秩父市」を目指します。

前進させたい3大事業

●医療体制の整備と健康増進

市立病院の救急医療体制を堅持するとともに、産科医療への協力を惜しみなく進め、地域の産科医療を確保し、安心して医療が受けられる地域の実現を目指します。

また、秩父郡市医師会との連携・協力を強化し、休日診療所を市立病院内へ移設できないかを検討します。

さらに、秩父地域の自治体、秩父郡市医師会、秩父郡市歯科医師会、秩父郡薬剤師会、福祉、保健センターなど地域全体で秩父の医療を守る努力をし、医療体制の整備を進めます。

また、健康寿命を延ばすよう、高齢者の生きがいづくりと日々の健康づくりを推進します。

●セメント跡地を中心とした道路網およびその周辺の整備

国道140号秩父陸橋の解体に協力し、セメント跡地に沿うF字型の市道整備を進めます。積極的な企業等の誘致活動を展開し、ホテルの建設計画が進む腰田堀西側の地区には、映画館などの誘致を早期に実現できるように、事業者への働きかけを強化します。

「道の駅ちちぶ」の充実では、周辺施設の機能を踏まえて、リニューアルに向けた検討を進めます。今後、皆野秩父バイパスの秩父蔭田インターチェンジから、秩父公園橋へ直接トンネルでアクセスする地域高規格道路の建設延伸を目指し、引き続き、国・県に対し、要望します。

そして、市道（幹線）3号線（視目坂下）歩道の完成とお花畑通線の拡幅および交差点改良工事への着手、市道（中央）500号線（番

場通り）の電線地中化工事を推進します。



企業誘致が進む旧秩父セメント第一プラント跡地

●秩父の自然を活かした産業振興・先端技術の活用

森林の整備では、森林経営管理制度に基づき、私有林の集約化と整備を進めます。荒川下流域を中心とした都市部へは、秩父産材による木工品の販売拡大を図り、小規模木工所を支援します。さらに、豊島区の森林環境譲与税を活用して整備した長尾根丘陵の「としまの森・ちちぶ」の例にならない、CO2を相殺するカーボンオフセット事業を通じて、都市部へ市の森林の重要性を売り込みます。

市では、2050年までに市内のCO2排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」宣言をしており、本庁舎・市民会館および

歴史文化伝承館で使用する電力をCO2排出量ゼロのゼロカーボン電力に切り替えます。また、再生可能エネルギーによる電力の地産地消を推進します。

先端産業の誘致育成では、ドローンの飛行に制約の少ない地域を活かし、ドローンを活用した、先端的な事業の受け入れを行います。

令和2年度重点事項

①誘客促進、外から人を呼び込む

誘客促進では、秩父地域おもてなし観光公社と連携して、「滞在型観光」の推進・定着に努めます。また、観光協会や鉄道会社などと連携を図り、外国人を含む多くの観光客の誘客に努めます。

「秩父市生涯活躍のまちづくり 秩父版C-C-R-C」では、「二地域居住」、「お試し居住」を推進し、関係人口の構築による秩父地域の活性化を目指します。また、移住者向けの空き家リフォーム支援制度などを活用し、空き家対策を積極的に進めます。

秩父地域地場産業振興センターでは、今後、さらに経営の安定化を図るため、段階的に組織の再編などの抜本的な改革を行い、海外販路拡大にも力を入れます。

日本語教室の充実により、市内在住の外国人の生活支援、優秀な外国人人材の地域企業への定着を支援します。

創意工夫で解決し、一步一步、前へ前へ、確実に！

②「秩父広域市町村圏組合」と「ちぶ定住自立圏構想」の2枚看板のもと、秩父地域全体での地域資源の機能充実を目指す

「秩父圏域県立高校魅力化プロジェクト」を推進し、それぞれの特色を活かし、圏域内の4校の存続を図ります。

「し尿処理事業」の広域化では、昨年「3カ所のし尿処理施設を統合し、し尿処理事業に関する運営組織を一部事務組合で行っていく」との方向づけがなされ、令和2年度以降、広域化準備室を設置し、本格的な準備を進めます。

公共交通では、高齢者の免許返納の促進を図りながら、地域公共交通網形成計画の策定に着手し、地域住民の移動手段の確保に努めます。

労働力の確保については、地域の特性を生かした「魅力ある雇用の創出やそれを担う人材の確保」に取り組みます。

③危機管理体制の強化とセーフティユニティ（SSC）再認証に向けて

セーフティユニティ事業では、令和2年秋頃の最終審査に向けて市民参加型の活動に重点的に取り組み、世界基準の「安全・安心なまち」として国際認証の取得を目指します。

危機管理体制の強化では、市民の防災意識向上のため、自宅での安全対策や備蓄品等の準備、避難所

一覽などを記載した秩父市のハザードマップを幅広く市民に周知します。

④財政健全化とファシリテイマネジメント（FM）の推進
人口減少からくる市税の落ち込みなども念頭に、財政健全化に向けて、繰上償還を計画どおりに進めるとともに、さらなる「ふるさと納税」の拡大を目指します。

ファシリテイマネジメントでは、公共施設等総合管理計画に基づき、具体的な対応方針を定める個別施設計画を完成させ、FMを着実に前進させます。また、老朽化対策では、ミューズパークの流れるプールの例を教訓に、老朽化の調査を行うとともに適切な対策を講じて、安全安心に施設の利用ができるよう、維持管理に努めます。

⑤障がい福祉サービスの充実
障がいに対する各種の相談に関しては、新たな障がいの形態が発生するなど、多様化した相談支援ニーズに対応するため、既存の各相談支援事業所の上位機関となる「秩父地域障がい者基幹相談支援センター」を1市4町で新たに設置することを目指します。

⑥子育てへの支援
民間保育施設の整備を支援することで、保育の受け入れ体制の拡大を図り、女性が働きやすい環境を整えます。

放課後児童対策では、ふれあい学校と児童保育室の一体化に向け、

整備を進めます。

「子どものちぶ版地域包括ケアシステム」の構築では、経済状況の厳しい家庭の子どもに対して、子ども食堂を中心に学習支援や多世代交流を行う居場所づくりを推進します。

また、子どもや子育てに関する総合的な支援機関「子ども家庭総合支援拠点」の整備に着手し、令和4年度の完了を目指します。

⑦教育と学校
基礎学力の向上、英語教育の推進およびICT（※1）教育の推進を目指します。

英語教育の推進では、小学校英語の教科化に伴うデジタル教科書などの教材用備品の配備を行い、また、市内の全ての中学2年生を対象に読む、書く、話す、聞くの英語4技能の判定GTETC（ジータック）を実施します。

ICT環境の整備では、国が進めるGIGA（ギガ）スクール構想を活用し、全ての児童生徒に1人1台のタブレット端末を配備します。

道徳教育の充実では、発達段階に応じた心の教育を重視し、いじめ撲滅を目指し、お互いを思いやる心を醸成します。

学校環境の整備では、未来の秩父市を担う子どもたちが安全・安心な学校生活を送れるよう、学校施設の環境改善に取り組みます。

老朽化対策として、国庫補助金を活用した校舎、体育館の大規模改修事業および長寿命化事業を計画的に実施します。

⑧3総合支所の主要事業の推進
それぞれの地域で季節の折々に開催される龍勢祭・奥秩父大滝紅葉まつりと氷まつり・荒川しだれ桜まつりの充実をさらに図ります。

吉田地区では、フルーツ街道沿線の観光農業を推進し、農業振興を図るとともに、新たに法人化により農業に取り組む農家や、新規就農者を支援します。

大滝地区では、東京2020オリンピックBMX競技を通じて、コロンビア共和国のホストタウン（※2）となったほか、山梨県、埼玉県、長野県および東京都にまたがる「甲武信エリア」が、ユネスコにより、自然と人間の共生を目指す生物圏保存地域「エコパーク」として登録されました。また、大滝特産品販売センターを活用したコンビニ出店への協力では、地域の方々の利用が促進されるよう、適切な支援を行います。

荒川地区では、荒川そば事業の推進に向け、地域のそば屋などの各店舗の風味の違いを明確にし、集客が図れるよう、各店舗の特色を情報発信していきます。また、スタンプラリーなどによる食べ比べなど、観光客の皆さんに味の違いを楽しんでもらえるよう、事業を進めます。

※1 ICT…情報通信技術

※2 ホストタウン…東京2020大会に向け、地域の活性化、観光振興等の観点から、参加国・地域と人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体